

教師ノート

週課	第二年 第一二課 第三週
単元	クリスマス
テーマ	キリスト降誕
タイトル	救い主の誕生
テキスト	ルカ2:1-20
参照箇所	ミカ5:2、マタイ2:4-6
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ルカ2:11
AG 日曜学校教案参照箇所	幼稚科1巻-主題2-課2 幼稚科1巻-主題2-課3 幼稚科1巻-主題2-課4 小学科上級1巻-主題3-課1 小学科上級1巻-主題5-課2
□導入	<p>例1:あなたは、自分が生まれた場所を知っていますか?自分のこどもを生むならどこで生みたいですか?生まれたら、だれに一番に伝えますか?</p> <p>㊦いよいよ、イエスの誕生シーンのメッセージです。キリスト誕生の様子を説明するだけでなく、以下のポイントにも注意しましょう。(1)神が人間の歴史にはたらいで、ミカ5:2の預言成就されたこと(1-5節)、(2)汚い家畜小屋でのご降誕は、キリストが私たちの罪の心に生まれてくださったことを象徴的に表していること(6-7節)、(3)主は「この民全体のためのすばらしい喜び」を伝える者として、普通の羊飼いを選ばれたこと(8-20節)。</p> <p>☞紙芝居などの視覚教材を有効に用いましょう。また、CS スタッフで簡単なスキットを楽しく演じてみましょう。またそのスキットに即興で子どもたちを出演させると、自然にメッセージの世界に入り込む体験ができ、非常に効果的です。</p>
□ポイント1 マリヤとヨセフは住民登録のために、ベツレヘムへ向かいました(1-5節)	<p>ルカは、キリストの降誕の記事を、人間の歴史の中のリアルな出来事として記録しています。住民登録について、それを命じたのがアウグスト(ローマ帝国初代皇帝ガイウス・オクタヴィアヌス)の尊称、前27—紀元14年在位)であり、その時期を「クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録」と詳細に至って示しています。その命により、自分の先祖の町に帰って戸籍を登録しなければなりません。ベツレヘムはエルサレムの南方8キロの町で、ヨセフの先祖・ダビデが生まれたところです(Iサム17:12)。妊娠中のマリヤにとっては大変な移動でしたが(ナザレから約136キロ)、シリアでは女性にも人頭税が課せられたため、マリヤもこの旅に同行しなければなりません。神は、このような歴史上のすべてのものを用いて、約700年前に書かれたミカ書5:2の預言を成就されたのです(ローマ皇帝アウグストさえも、神の前には、キリストがダビデの町で生まれるという預言成就の道具として使われたのです)。すべては偶然ではありません、この世界を支配しておられる神のなせるわざです。</p>
□ポイント2 救い主イエスさまは、家畜小屋の飼葉おけにお生まれになりました(6-7節)	<p>町の宿屋はどこもいっぱいだったので、マリヤとヨセフは家畜小屋に泊まりました。その夜、神の時が満ちて、マリヤは男の子を産みました。マリヤとヨセフは、お生まれになった救い主を、飼葉おけに寝かせました(注)。神の子であるイエスは、天国で神の右の座につくべきお方です。そのお方が地上に来られるとしたら、王宮のベッドや皇室専門の産婦人科病院で生まれるのがふさわしいと思いませんか?「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分</p>

を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。」(ピリピ2:6-9)。「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです」(IIコリント8:9)。降誕のストーリーは、私たちの汚い心(罪)の中に、イエスが来て下さったことを、まさに象徴しています。

注)家畜小屋と飼葉おけ:テキストに記載されていないので詳しい状況は不明です。住民登録は、エルサレム巡礼祭の旅の機会に際して行なわれたと考えられ、そうだとすると、そのために宿屋が満室だったのかもしれませんが。イスラエルの家屋は、家全体が1つの部屋で、その同じ屋根の下に仕切りを設けて家畜を飼うというのが一般的でした。「宿屋には彼らのいる場所がなかった」ので、マリヤとヨセフはそのような一般の農家に、住人と一緒に泊まっていたのかもしれませんが。1つの狭い部屋にたくさんの人が寝ていたので、イエスが生まれたとき、もう床にはスペースがなく、飼葉おけ(石製)に寝かせるしかなかったとも考えられます。またその家は、洞窟のような場所だったという説もあります。いろいろな説はありますが、すべて詳細は不明です。ですから、このアウトラインでは、(紙芝居などに描かれているように)「宿はいっぱいだったが、やっとの思いで外の家畜小屋に泊まらせてもらうことができた」というイメージでお話しするようにお勧めします。小学生に、わかりやすく真理が伝わる方法でお話すべきです。

□ポイント3 御使いが、救い主誕生の知らせを、羊飼いたちに知らせました(8-20節)

羊飼いは、昼間は羊を放牧し、夜は囲いに入れてその番をしました(羊飼いだっ頃のダビデも同様の生活だった)。現代のように電灯のない闇の中に、主の栄光が照らしました。主は「この民全体のためのすばらしい喜び」を伝える者として、一介の羊飼いを選ばれたのです。そのよき知らせとは11~12節の内容です。「いと高きお方」がまったく低い「飼葉おけに寝ておられる」という驚くべき知らせです。その知らせが告げられると、突然「多くの天の軍勢」が現われました。羊飼いたちは、この知らせを疑わず「主が知らせてくださった」と確信しました。彼らはベツレヘムの町にある無数の飼葉おけから、キリストを見つけ出そうと闇の中を急いで出かけます。彼らは、イエスを探し当て、マリヤとヨセフやその家にいた人に、御使いの知らせを告げました。「羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」(20節)。世界ではじめのクリスマスの夜に響いたのは、羊飼いの純粋な賛美でした。

☞御使いは11節で、「みどりご」を「救い主」・「キリスト」・「主」と三つの呼び名(性質)で表現しています。

☞天の軍勢の賛歌は、「いと高き所に、栄光が」のラテン語訳から「グロリヤ・イン・エクセルシス」と呼ばれています。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1:私たちの汚い心にイエスさまを迎え入れ、本当のクリスマスを迎えましょう。約2千年前のクリスマスに、「いと高きお方」は、身分を低くして飼葉おけに生まれてくださいました。それと同じように、イエスさまは必ずあなたの心に来てくださいます。心の罪をすべて告白し、あなたの心の真ん中にイエスさまを迎え入れることが、本当のクリスマスです。信じてお祈りしましょう。

例2:イエスさまは、すべての人のために、生まれてくださいました。そして、福音を伝えるのも、羊飼いなような「フツー(普通)」の人を選んでくださいました。あなたも、お友だちや、家族、すべての人を愛して、福音を伝える人になりたいと思いませんか!